

September 4, 2019

【前日の為替概況】ユーロドル、7日ぶり小反発 米ISM製造業景気指数が弱くドル売りが先行

3日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは7営業日ぶりに小反発。終値は1.0974ドルと前営業日NY終値(1.0970ドル)と比べて0.0004ドル程度のユーロ高水準だった。欧州市場では一時1.0926ドルと2017年5月以来約2年4カ月ぶりの安値を付けたものの、NYの取引時間帯に入ると買い戻しが優勢となった。8月米ISM製造業景気指数が49.1と予想の51.1より弱い内容となり、好況・不況の判断の分かれ目となる基準値の50を下回ったため全般ドル売りが先行。米10年債利回りが一時1.4272%前後と16年7月以来の低水準を付けたこともユーロ買い・ドル売りを促し一時1.0979ドルまで値を上げた。欧州中央銀行(ECB)理事会メンバーのミュラー・エストニア中銀総裁が「債券買い入れ再開の強い論拠はない」と述べたことも意識された。ただ、ECBが金融緩和姿勢を強めるとの見方は根強く、買い戻しが一巡すると伸び悩んだ。一部通信社は関係者の話として「ECBは12日に開く定例理事会で、利下げや金利の階層化、フォワードガイダンス強化など包括的な刺激策を決定する方向に傾いている」など報じた。

ドル円は3日続落。終値は105.94円と前営業日NY終値(106.24円)と比べて30銭程度のドル安水準だった。23時前に一時106.31円付近まで買われる場面もあったが、23時発表の8月米ISM製造業景気指数が低調な内容だったことが明らかになると円買い・ドル売りが優勢に。ダウ平均が420ドル超下落し、米長期金利が低下幅を拡大したことも相場の重しとなり、一時105.74円と日通し安値を付けた。米10年債利回りが1.47%台まで低下幅を縮めると買い戻しが入り106円台を回復する場面があった。

ユーロ円は続落。終値は116.26円と前営業日NY終値(116.53円)と比べて27銭程度のユーロ安水準。欧州市場序盤に一時115.87円と17年4月以来約2年5カ月ぶりの安値を付けたものの、NY市場では下値の堅さが目立った。ユーロドルの上昇につれた買いが入ったほか、ドル円の下げ渋りに伴う円売り・ユーロ買いが出て116.38円付近まで上げた。

ポンドドルは底堅い動き。欧州時間に一時1.1959ドルと16年10月以来約2年11カ月ぶりの安値を付けたものの、英首相報道官が「ジョンソン英首相は総選挙を望んでいない」との見解を示すと一転買い戻しが優勢に。「英保守党議員であるフィリップ・リー氏が離党し、与党勢力が議会過半数を失った」と伝わると、英国の「合意なきEU離脱」への懸念がやや和らぎポンド買い戻しがさらに強まった。低調な米経済指標も相場の支援材料となり、一時本日高値となる1.2106ドルまで上値を伸ばした。

【本日の東京為替見通し】ドル円 上値重い値幅限られる、豪ドル・ポンドの値動きに注目

ドル円は重い推移か。米株が弱含んで引けたこともあり、本日の日経平均は反落することが予想される。株式市場の弱さや、香港情勢、中国が米国の関税に対し世界貿易機関(WTO)への提訴したことによる米中通商摩擦の激化など、リスクオフになる要因が多数あるため、ドル円の上値は限られるだろう。しかし、ここ最近の為替市場は、本邦勢以外は、連日年初来安値を更新している欧州通貨や、重要指標が目白押しに発表されているオセアニア通貨に目が向けていることで、ドル円が大きく動くのは難しいだろう。ドル円相場を動意づける要因としては、東京時間でも方向感なく動く米金利や米中の要人発言になりそうだ。

上記のように、ドル円以外の通貨は大きく動く可能性が高い。まずは東京時間の10時半に豪州から4-6月期国内総生産(GDP)が発表されることで、豪ドルの動きに警戒したい。昨日は豪小売売上高が市場予想より弱い結果となったことで豪ドルは売られたが、その後の豪準備銀行(RBA)が政策金利発表を据え置き、声明文もよりハト派な内容にもならなかったことで豪ドルは買い戻された。本日発表されるGDPの市場予想は前期比+0.5%、前年比+1.4%となっているが、一部では前期比がマイナスになるのではないかとの声も出ている。結果次第では再び豪ドルは乱高下する可能性が高い。

また、昨日対ドルで、2年11カ月ぶりの安値水準まで下落したポンドの動きには注意が必要だ。日本時間早朝に、英下院が英国の欧州連合(EU)離脱を巡り、合意なき離脱を阻止する法案の審議入り動議を賛成328票、反対301票の賛成多数で可決した。これに対してジョンソン英首相は「総選挙実施に向けた動議を提案する」と発表している。保守党議員で造反した21名の議員を除籍するとも報じられている。総選挙実施について、コービン労働党党首は賛成すると報じられているが、労働党出身のブレア元英首相は民主社会主義者で無党派層を中心に人気のないコービン労働党党首では、労働党は選挙で勝つことができないので、総選挙については反対している。このような状況のため離脱の期限が2カ月を切っている英政局がより混乱し、ポンドも乱高下する可能性が高い。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 09:50 頃 ◎ 黒田東彦日銀総裁、あいさつ
○10:30 ◎ 片岡剛士日銀審議委員、あいさつ

<海外>

- 10:30 ☆ 4-6 月期豪国内総生産 (GDP、予想：前期比 0.5% / 前年比 1.4%)
○10:45 ◎ 8 月 Caixin 中国サービス部門購買担当者景気指数 (PMI、予想：51.7)
○16:50 ◎ 8 月仏サービス部門 PMI 改定値 (予想：53.3)
○16:55 ◎ 8 月独サービス部門 PMI 改定値 (予想：54.4)
○17:00 ◎ 8 月ユーロ圏サービス部門 PMI 改定値 (予想：53.4)
○17:30 ◎ 8 月英サービス部門 PMI (予想：51.0)
○18:00 ◎ 7 月ユーロ圏小売売上高 (予想：前月比▲0.6% / 前年比 2.0%)
○20:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数
○20:00 ◎ レーン・フィンランド中銀総裁、講演
○21:30 ◇ 4-6 月期カナダ労働生産性指数 (予想：前期比 0.1%)
○21:30 ◇ 7 月カナダ貿易収支 (予想：4.0 億カナダドルの赤字)
○21:30 ◎ 7 月米貿易収支 (予想：535 億ドルの赤字)
○22:15 ◎ カーニー英中銀 (BOE) 総裁、ホールデン英中銀金融政策委員会 (MPC) 委員、ハスケル MPC 委員、ブリハ MPC 委員、議会で発言
○22:25 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、講演
○23:00 ☆ カナダ銀行 (BOC、中央銀行)、政策金利発表 (予想：1.75%で据え置き)
○23:00 ◎ メルシュ欧州中央銀行 (ECB) 専務理事、議会で発言
○23:00 ◎ カプラン米ダラス連銀総裁、講演
○5 日 01:30 ◎ ボウマン米連邦準備理事会 (FRB) 理事、ブロード米セントルイス連銀総裁、イベントに参加
○5 日 01:30 ◎ デギンドス ECB 副総裁、講演
○5 日 02:00 ◎ カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、講演
○5 日 03:00 ◎ 米地区連銀経済報告 (ページブック)
○5 日 04:15 ◎ エバンズ米シカゴ連銀総裁、講演
○東方経済フォーラム (安倍晋三首相が出席、滞在中に日ロ首脳会談、ロシア・ウラジオストク、6 日まで)

5 日

<国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況 (週次・報告機関ベース)

<海外>

- 10:30 ◇ 7 月豪貿易収支

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

3日 13:20 ロバートソン・ニュージーランド(NZ)財務相
「何時の時点でも追加予算を発表する可能性がある」
「経済的なショックに 대응する準備をしている」

3日 15:21 麻生財務相
「米中間の争いは極めて深刻」
「米中貿易戦争、短期間で解決することはない」

3日 16:58 中国政府
「香港の抗議活動が制御不能になるなら傍観しない」
「軍の出動は一国二制度を終わらせない」

3日 17:17 英労働党報道官
「我々は、総選挙の実施を望んでいる」

3日 19:51 英首相報道官
「ジョンソン英首相は総選挙を望んでいない」

3日 21:35 劉鶴中国副首相
「米国と中国が互恵に基づいて問題を解決できると期待」

3日 22:18 トランプ米大統領
「中国との交渉で我々は非常に上手くやっている」
「私が再選されれば中国にとって取引は益々厳しくなる」

3日 22:28 コービン英労働党党首
「総選挙の実施と合意なきブレグジット阻止の両方に自信」

3日 23:50 ジョンソン英首相
「EU 離脱案、合意の可能性は上昇」
「アイルランド首相とは9日(月)に会談」
「アイルランド国境、解決策はある」
「我々は総選挙を望まない。ブレグジット合意を望む」

4日 06:16
「総選挙実施に向けた動議を提案する」

4日 00:34 欧州中央銀行(ECB)理事会メンバーのミュラー
「債券買い入れ再開の強い論拠はない」
「行動が必要な場合、利下げは最初の選択肢」

4日 02:37 デイマイオ伊与党・五つ星運動党首
「民主党との連立、党員から79%以上の賛成を得た」
「政府は危機を脱した」

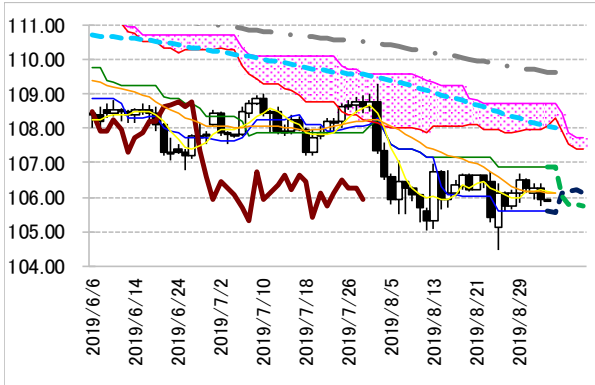
4日 04:07 ビルロワドガロー仏中銀総裁
「ECBには債券購入再開の選択肢が常にあるが、今すぐ再開する必要があるかどうかは疑問」

4日 05:50 ブラード米セントルイス連銀総裁
「急降下している米金利や貿易戦争に対して積極的な行動が必要」
「FRBは50bp利下げすべき」

4日 06:07 ローゼングレン米ボストン連銀総裁
「リスクは上昇したが、まだ現実的ではない」
「米経済のリスクが鮮明となればFRBは積極的に利下げすべき」
「政策の調整が必要かどうかを見極めるために今後の指標を注視」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

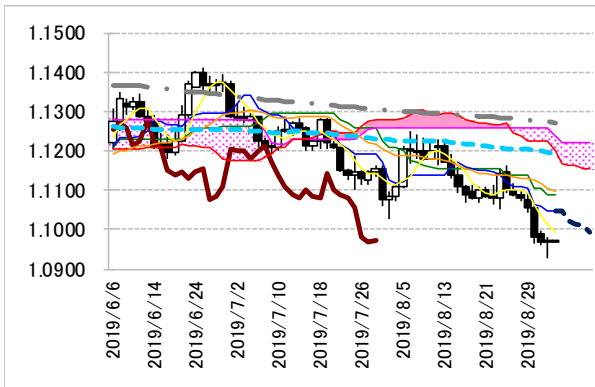


<ドル円＝転換・基準線レンジ内の推移を継続中>

下影陰線引け。下げ止まりかけた 21 日移動平均線を上回る水準での底堅い推移が先行した。

しかし、前日高値 106.40 円を上抜くことができず失速。低下を再開した 21 日線を下回る水準での動きとなりそう。限られたレンジの推移で、一目均衡表・転換線と基準線の交差が想定される 106 円付近へ収れんする流れにある。

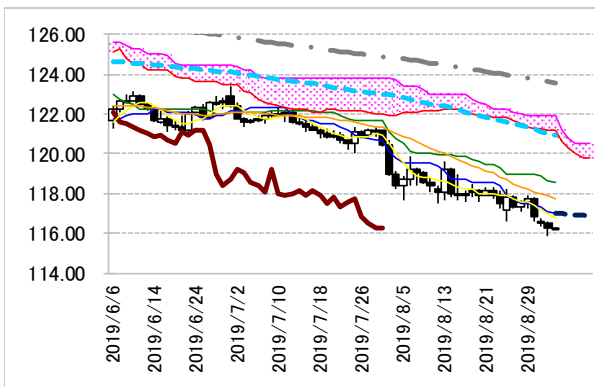
レジスタンス 1	106.68(8/29 高値)
前日終値	105.94
サポート 1	105.60(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	105.31(8/26-29 上昇幅の 61.8%押し)



<ユーロドル＝2年4カ月ぶりの安値圏でも下攻めムード強い>

下影極小陽線引け。1.0926 ドルまで年初来安値を更新した。2017年5月以来、約2年4カ月ぶりの安値水準でも下攻めムードが強い。下げ渋ったが、依然として下方リスクをケアしなければならない状態にある。現在 1.0991 ドル前後に位置する 5 日移動平均線が低下の流れを緩め、水準を下げた一目均衡表・転換線付近で推移するような局面が、下げ止まりのタイミングとなりそう。

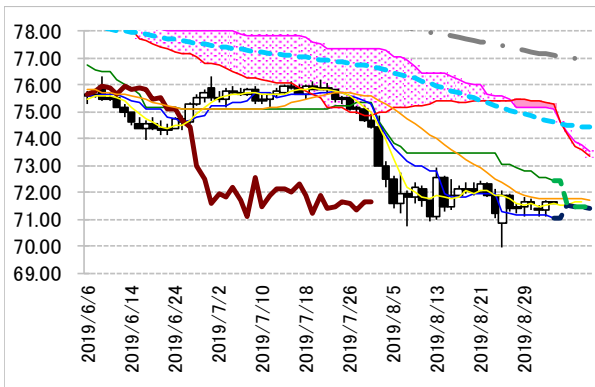
レジスタンス 1	1.1027(8/1 安値)
前日終値	1.0974
サポート 1	1.0926(9/3 安値＝年初来安値)



<ユーロ円＝5日線前後が重そう>

下影陰線引け。目先のすう勢を示す 5 日移動平均線の低下をともないつつ、下値を探る展開が続いた。115.87 円まで年初来安値を更新した。2017年4月以来の安値水準で下げ渋り、目先の底堅さを示唆する下ひげをつけた足型を形成した。しかし陰線であり、強い反発力は感じられない。低下中の 5 日線前後からの戻りは重そう。

レジスタンス 1	116.73(5 日移動平均線)
前日終値	116.26
サポート 1	115.76(2017/4/18 安値)



<豪ドル円＝21日線に導かれるような推移想定>

下影陽線引け。71 円付近に位置する一目均衡表・転換線付近を維持し、21 日移動平均線近辺へ戻してきた。本日、21 日線は 71.76 円前後で推移。横ばいへ転じつつある同線の動向に導かれるように、転換線と一目・基準線の交差が想定される 71 円半ばへ収れんする動きとなりそう。

レジスタンス 1	72.08(8/26 高値)
前日終値	71.63
サポート 1	71.10(9/3 安値)

